

国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校

教諭 〇〇 〇〇

1 日 時 平成25年11月〇日

2 学年・組 第2学年〇組

3 指導事項

(1) C 読むこと ウ

・文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(オ)

・相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。

4 単元名 自分を見つめる 「走れメロス」

5 言語活動

・「走れメロス」と童話「オオカミと七匹の子ヤギ」の構成について分析し、比較をすること。

6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	言語に関する知識・理解・技能
○文章の構成について、自分の意見を持ち、交流して考えを深めようとしている。	○「走れメロス」「オオカミと七匹の子ヤギ」の構成の仕方について、どちらが好きか根拠を明確にして自分の考えを書いている。	○文章の展開を根拠に「走れメロス」「オオカミと七匹の子ヤギ」の作者の意図(目的)を書いている。

7 単元について

○教材観

本教材では、作品の初めと終わりで、メロスと王という二人の人物の考え方や心情が変容している。そこには、人間の心が状況と関係によって変化していくものであることが語られており、人の内面が周囲の人との関わりの中で形成されていく様子が描かれている。人間の内面の揺れや葛藤、苦悩、変化の過程などを読み取ることは、登場人物の理解につながり、生徒は文章としての面白さだけでなく、生き方や心の闘いの意味、真の人間性など、多くのものを示唆してくれる。

構成に着目して見た場合、ストーリーは、ほぼ時間の経過にしたがって展開されているものの、一般的な構成の発端でよく書かれる事件発生までの状況や人物の説明もなく、問題が発生し展開されている途中を文章の書き出しに設定していること、畳みかけるように起こる出来事の設定、事件解決後の余韻も後日談もない書き終わりなど、作者が読み手に向けて、テンポがよくスピード感のある文章展開を目的としているという特徴をとらえることができる教材である。特に後半の場面では、メロスに様々な試練を設定し、せっぱ詰まった状況や危機的な状況と、時間との競争を畳みかけるように繰り返すことで、作品をドラマティックに演出する効果を生み出しており、作者の構成の意図を考えさせるのに適した教材であるといえる。本教材の学習により、作品に同化し、参加している状態から、作者や作品を対象化して、作者の構成の意図を考えることができるようになる。と考える。

○生徒観

これまでの学習で、時間や出来事、人物の心情の変化などから、作品の構成を考える学習課題に対して、場面分けの根拠を明確に示せない生徒が多く、苦手な傾向にある。さらに、作品を対象化して、構成における作者の意図や構成のもたらす作品への効果について考えた経験は少ない。作者が読み手に向けて、どのような効果をねらって、文章の構成やストーリー展開に工夫をしているかについて、自分の知っている文章と比べて考える活動は初めてである。

本学級の生徒は、課題に興味をもって真面目に取り組むことができる生徒が多い。班活動においても、お互いに協力して教え合い学び合いながら取り組む力は育ってきている。しかし、集中して課題に取り組むことが持続しにくい生徒や、自分への自信のなさから、一人でじっくり読んで解釈することが難しく、すぐに人を頼って正解を知りたがる生徒もいる。また、自分の考えを理論立てて分かりやすく相手に伝えることや全体で発表することに苦手意識をもつ生徒が多い。

○指導観

指導に当たっては、まず、文章全体の構成を、「いつ」「だれが」「どこで」「どうした」のかという視点で見た場合、日ごとに出来事の量的な違いがあることに気づかせるため付箋紙を活用して、出来事を時間軸が均等のワークシートを用いる。このことが、本学習材の構成が作品は単純に時間の経過とともに進んでいるのではなく意図的に構成されていることに気付くきっかけとなる。その際、出来事の重要度をランク付けし、文章の中で欠かせない出来事を押さえ、その出来事が文章の中でどのような役割を担っているかを分析することで、文章を手だてとして構成に必要なパーツや順番について理解することができると思う。三次では本教材の比較対象として、ほとんどの生徒が知っている童話「オオカミと七匹の子ヤギ」の構成の分析を同じように行い、本教材と比較して共通点や相違点を見つけることで、作者の構成の意図について考えることにつなげていきたい。その際には、作者が読み手にどのような印象をもたせたいか、といった目的に応じて、文章の形態に違いがあることを理解させたい。学習のまとめでは、本教材と比較教材の構成のどちらが好きであるかを選択させ、根拠を挙げさせる言語活動を通して、構成についての自分の考えをもたせることにする。

単元を通じて、特別支援教育を視点に置いた発問や指示を工夫し、何について考えさせるか、どのように考えればよいのか、考えたことをどのように表現していけばいいのかを具体的に示すことや、個別やグループ学習等の形態を工夫することで、集中して課題に取り組み、生徒に自信をもたせたい。

8 単元の学習と評価の計画

		学習活動	国語に関する 関心・意欲・態度	読む 能力	言語に関する 知識・理解・技能
一次	第1時	文章の構成に着目して全文を読み、「構成」についてと、「メロスの行動や考え方」について、という視点で感想をもつ。	○	○	
	第2時	「構成」についてと、「メロスの行動や考え方」について		○	

二次		て、という視点で感想を書き、場面構成を考える。			
	第3時	場面ごとに、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」のかという出来事を付箋紙に書き出し、表に貼り付けて整理する。		○	
	第4時	4日間の時間の流れと出来事を日ごとに確認し、出来事を文章中の重要度でランク付けし、重要な出来事が文章中でどのような役割を担っているかを考える。	○	○	
三次	第5時	童話「オオカミと七匹の子ヤギ」の構成を「走れメロス」と同様に分析する。		○	
	第6時 (本時)	童話「オオカミと七匹の子ヤギ」と「走れメロス」の構成の仕方を比較し、構成の共通点や違いをとらえ、作者の構成の意図を考える。		○	○
	第7時	童話「オオカミと七匹の子ヤギ」と「走れメロス」を比較すると、どちらの構成が自分の好みであるかを考え、その根拠を明確にもつ。		○	

9 本時の目標

- ① 「走れメロス」と「オオカミと七匹の子ヤギ」の構成を比べて、根拠（構成表、文章）を基に相違点を見つけることができる。
- ② 「走れメロス」と「オオカミと七匹の子ヤギ」の構成を比べて、二人の作者がどんな目的でこの構成の仕方にしたのかを考えることができる。

10 学習展開（第6時）

※ …特別支援教育を視点に置いた工夫点

	学習活動	指導上の留意事項	評価基準・評価方法
導入	<p>○前時の活動内容を思い出す。</p> <p>・前時に行った「オオカミと七匹の子ヤギ」の文章の構成を思い出し、発表する。</p> <p>(例) 出来事「オオカミが次から次へと子ヤギを食べる」→役割「危機的状況」</p> <p>○本時の目標を知る。</p> <p>・目標を声に出して読む。</p> <p>・目標を書く。</p>	<p>・生徒から挙げた「出来事」と「文章中での役割」のカードを黒板に貼っていく。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・目標を視覚的に示し、声に出して読み、書くことで、本時のねらいを意識させ、見通しをもたせる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>目標を視覚的に示すとともに、声に出して読む、相手の声を聞くなど複数の感覚を使う。</p> </div>	
	<p>「走れメロス」と「オオカミと七匹の子ヤギ」の構成を比べて</p> <p>①根拠（構成表、文章）を基に違う点を説明しよう。</p> <p>②構成の仕方には、作者のどんな目的があるかを書こう。</p>		

	<p>○「走れメロス」と「オオカミと七匹の子ヤギ」の構成表を見て、根拠を基に共通点と相違点を見つける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個人で考える 2 グループで自分の考えを述べ、意見を交流する。 	<p>・「走れメロス」と「オオカミと七匹の子ヤギ」の構成表を黒板に貼り、視覚的にイメージしやすくする。</p> <p>・見つけにくい場合は、構成における役割の部分と比較してみるように伝える。</p> <p>・何分間で考えるのか、交流するのか、具体的に指示を出す。</p>	
	<p>○両者の相違点を発表する。</p> <p>・「走れメロス」には△△△がないが、(構成表の～、教科書のp.○○～)「オオカミと七匹の子ヤギ」には△△△が(構成表の～、プリントのp.△△～)ある。</p>	<p>・二つ以上のものを比較して意見を述べるときの表現モデルを示す。</p> <p>A(「メロス」)は____(構成表の～、教科書p.○○～)がないが、 B(「子ヤギ」)は____(構成表の～、プリントp.△△～)がある。</p>	<p>A:「走れメロス」と「オオカミと七匹の子ヤギ」の構成表を比較し、構成表と教材文の文言を根拠としながら、両者の共通点や相違点を書いている。</p> <p>B:「走れメロス」と「オオカミと七匹の子ヤギ」の構成表を比較し、構成表の文言を根拠としながら、両者の共通点や相違点を書いている。(ワークシート)</p>
<p>展 開</p>	<p>◎作者の構成にはどんな目的があったのかを考える。</p> <p>・最初の説明や紹介を省いた始まり方→意外性があり、読み手を物語に強く引き込むため。</p> <p>・問題解決後の余韻や後日談のない終わり方→物語の中で完結させず、あえて明かさなことで、読み手に想像させるため。</p> <p>・様々な問題を畳みかけ、失意からの復活といった転換点を用意→テンポをよくしてスピード感をもたせるため。ピンチからの大逆転というドラマティックな盛り上がりをおねらったため。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個人で考える 2 グループで交流する。 3 全体で発表する。 	<p>・「構成の目的」という発問の意味が分かりにくいと予想されるので、簡単な具体例を示し、構成が変わると読み手の印象が変わることをつかませる。</p> <p>(例)</p> <p>・「姉は怒り狂った。なぜなら、僕が姉の大好物のケーキを独り占めして食べたからだ。」</p> <p>・「姉はケーキが好物である。ある日、僕はおやつを姉の分まで食べた。それが姉にばれたので、姉は怒り狂った。」</p> <p>・作者は読み手をどんな気持ちにさせたいと考えて構成を練っているのかを考えるように伝える。</p> <p>・何分間で考えるのか、交流するのか、具体的に指示を出す。</p>	<p>A: 太宰と童話の作者の構成の目的と、その構成によって生まれる効果を書いている。</p> <p>B: 太宰と童話の作者の構成の目的を書いている。(ワークシート)</p>

終
末

○本時で学習した内容を振り返る。

- ・作者は目的に応じて、構成を工夫していること。

→つまり、構成が変わると読み手が受け取る作品の印象も変わること。

○次時の学習内容を確認する。

- ・「走れメロス」と「オオカミと七匹の子ヤギ」の構成では、どちらが好きか、それはなぜかを追究していく。

- ・構成が作品にもたらす効果を最後に確認、整理し、次時の活動につながるようにする。